



博物館を楽しむ

おおした たかし
大下 尚 (友の会会員)

博物館の楽しみは、もっぱら知的好奇心を満たすことだと思う。ここにやってきた「知の狩人^{かりゆうど}」たちは、博物館で時空を超えた展示物を目の当たりにして、日常ではお目にかからないものに遭遇するのだ。

土器や銅鐸^{どうたく}、仏像や絵図^{えず}など人の手のかかったものだけでなく、太古の化石や鉱物、昆虫や植物など自然界のものまで、あらゆるものが展示されている徳島県立博物館は、とてもワクワクするミュージアムだ。県内には他にもユニークな博物館があり、難しいことは考えずに、素直に楽しめばよいのだと思う。それはいずれも異世界に入っていく楽しみなのだと思う。そういう楽しみ方は非常にオーソドックスなもので、王道だといえる。

しかし、博物館の楽しみ方は他にもあると思う。それは、知的欲求ではなくて「美的欲求」を満たすことだ。知の狩人ではなくて「美の狩人」になることだ。普通、それは隣にある近代美術館の役目だろうが、博物館でそれを満たしてもいいと思う。私はそういう動機で博物館に赴くことがある。

私は写真撮影を趣味としている。主に風景写真を撮るので、ハッとする光景を追いかけて、人が行かないような地の果てともいべき磯の限界や山道からはずれた秘境、深い谷の底、かつて生活の中で使われてきたが、今は忘れ去られた古道などで、自然を楽しみながら撮影して

いる。あるとき、友人から「雨なので撮影に行けない」と言われ、「博物館に行ったら面白いよ」と答えたら意外な顔をされた。

博物館に展示されているものは、学術的価値があるものだけでなく、美術的にも素晴らしいものがあると思う。見ていてその造形の見事さに見入ってしまい、時間を忘れそうになることも間々ある。博物館の来訪者にこういう者は少なからず存在していると思う。というのも、写真コンテストでは博物館をテーマにした作品を目にすることがあるからだ。こうした存在は、知の狩人たちの集う博物館友の会には希少だと思うので、アワーミュージアムにこんな趣旨の投稿^{とうこう}をした者はかつていないと思う。まあそこは少し寛容になって楽しんでいただけたらありがたいと思う。



図1 造形としても面白い恐竜の骨格展示

ところで、徳島新聞に読者の写真コンクールというのがある。毎月募集しており、私はここ最近応募している。令和6年4月10日に紙上で発表された第586回において私の写真が佳作^{ちようだい}を頂戴した。佳作は名前だけの掲載だが、後日

「^{しゃかく}写角」という別のコーナーで写真が掲載された。

写真のテーマは博物館の恐竜の骨格だ。ちょうど1年前に仮撮影し、そのうちちゃんと撮ろうと温めてきたテーマだ。展示室の照明が恐竜の眼の位置に見えるよう設定し、明かりが星形になるよう撮影したものだ。恐竜がほぼシルエット状にあり、背景の赤い照明が効果的に演出し、赤と黒の色調をベースにして、人を「えっ!」と思わせる作品になるよう心がけた。



図2 佳作を受賞した恐竜骨格の写真
照明が光る眼のように見える角度で撮影した

博物館に展示されているものの中にはまだまだいい被写体となりそうなものはある。ただ気をつけなければいけないこともある。それはマナーだ。まず、三脚は使用禁止なのだ。また、撮影する行為、体の動きや身の置き方が他の方の邪魔になることがあることに留意しないといけない。さらに、徳島県立博物館には撮影してはならない貴重な作品が展示されていることを忘れてはならない。徳島県指定有形文化財の^{じゅういちめんくわんざん}十一面観音菩薩立像だ。

あまりネガティブな話ばかりでは気が沈んでしまう。恐竜の骨格について話を戻すと、背景の赤の照明が見事で作品の魅力をアップさせたと書いた。そう、博物館のショーアップ、見せ方である。どうやったら効果的に見せられるか、博物館側は考えているのだ。施設を運営する側にとっては当たり前の話であるが、注意深く撮

影しているとそのことに気が付く。そうしたことにも思いを巡らしながら撮影するのはとても楽しい。今回の受賞にあたり、背中を押してくれた長谷川前館長だけでなく、効果的な演出を行った展示業者にも感謝の意を表したい。

さて恐竜ついでに、いよいよ「トクシマ恐竜展 2024」が始まる。7月19日から約2か月間だが、恐竜といえば^{かつうら}勝浦で続々と貴重な恐竜の化石が発見されている。アロサウルスと思われる肉食恐竜の歯が中四国初発見であり、植物食恐竜イグアノドンの尻尾は日本最古級である。この他にも福井や北海道からティラノサウルス、カムイサウルス、トリケラトプスなどがやってくるので壮観だと思う。とても楽しみにしている。

友の会行事報告

なると いたの こふんぐん 鳴門・板野古墳群 レール&ウォーク

- 日 時 11月12日(日) 8:30～16:00
- 場 所 鳴門市・板野町^{あまのかわけ}(天河別神社など)
- 担 当 ^{ゆうき たかのり}結城孝典(友の会役員)
^{とくの としはる}徳野壽治(友の会役員)
^{うえ ぎ たけひこ}植地岳彦(博物館学芸員)
^{まるやま なおき}丸山直生(友の会事務局)

○参加者 6名

^{さぬきさんみやくとうなんろく}讃岐山脈 東南麓には、多くの遺跡や古墳があります。中でも、鳴門市^{おおつ ちょう}大津町から板野町^{いぬ}犬伏^{ぶし}周辺は、弥生時代終末期(3世紀中頃)から古墳時代前期(4世紀)の首長墓^{しゅちよう ぼ}が時間的に連続してつくられた地域です。徳島と近畿地方との関係を推定することができる興味深い古墳群があり、一部は国の史跡^{しせき}にも指定されています。

この行事では、^{へんろみち}遍路道も通りながら、徒歩と鉄道で効率良く国指定史跡を中心とした古墳巡りを楽しみました。(丸山直生)

Voic^e 参加者の声

●結城孝典さん

あまのかわけ 天河別神社古墳群、はぎわらふん ぼ ぐん 萩原墳墓群は今から 45 年ほど前、県道 12 号線の建設工事に伴う発掘調査が行われており、私は 5 ヶ月あまりの間、調査に関わりました。当時、発掘調査の初心者であった私は、やること見ることがすべて新鮮で貴重な体験でした。

古墳を見て「こーふん」し、土器を見つけては「どきどき」したものです。

今回見学した古墳は、徳島の古代を理解する上で大切な史跡であり、今後も保護と活用を図ってほしいとあらためて感じました。

●R.D さん

念願の鳴門・板野古墳群を巡ることができ、興奮が止みません。訪れた古墳(や遺跡)で発掘、保存の経緯や文化財保護の課題、そして、実際に発掘に携わられた方のお話も伺えて胸が熱くなりました。

駅の近くに古墳があり、歩きながらじっくり周辺を観察できた事も楽しかったです。今後できれば定期的に鳴門・板野古墳群のイベントを行っていただきたいですし、多くの方に興味を持ってもらいたいです。



あたごやま 「板野の愛宕山古墳」にて記念撮影

友の会行事報告

鳴門市ドイツ館と かがわとよひこ 賀川豊彦記念館の見学

○日 時 11 月 26 日(日) 13:00 ~ 16:00

○場 所 鳴門市ドイツ館

鳴門市賀川豊彦記念館

○担 当 こうさかとしゆき 幸坂敏行 (友の会役員)

こばやしあつまさ 小林篤正 (博物館学芸員)

まつながともかず 松永友和 (博物館学芸員)

まるやまなおき 丸山直生 (友の会事務局)

○参加者 6 名

鳴門市ドイツ館では、第一次世界大戦によって板東俘虜収容所へ送られたドイツ兵たちの活動の様子や、地域の人々との交流の様子が展示されています。また、賀川豊彦記念館は、青少年期を鳴門で過ごし、友愛・互助・平和のために生涯を捧げ、ノーベル平和賞候補に 4 度、ノーベル文学賞候補に 2 度ノミネートされた賀川豊彦(1888-1960)に関する資料が展示されています。もりきよはる 森清治ドイツ館長、ふじたすすむ 藤田進賀川豊彦記念・鳴門友愛会事務局長の案内で両館を見学した後、国指定史跡板東俘虜収容所跡(ドイツ村公園内)を訪れ、地域の歴史について学びました。

(丸山直生)

Voic^e 参加者の声

●幸坂敏行さん

この日はドイツ館のリーフレットより濃い青空でした。ドイツ館では館長の森さんから板東の歴史・捕虜と地域の人たちの心の交流などについて詳しく解説していただきました。特に収容所の立体模型の前ではそれぞれの建物の位置を教えてくださいました。自分たちの知恵と技術でここで働き、生活をよくしていこうと努力したことがよくわかりました。商店やボウリング場、

別荘があったことに驚きました。

後で実際に収容所跡でも、地図を片手に歩きながら森さんの解説が聞けました。当時のままのレンガの刻印も確認しました。発掘調査にもたずさわったということなので、どんな質問にもていねいに答えていただきました。

賀川豊彦記念館では、紹介DVDを見た後、事務局長の藤田さんから賀川のおいたちや目指したもの、そして実際に活躍したことについてエピソードをまじえながら解説していただきました。彼の思想や功績が後の日本の組織に結びついていること、現在の私たちの暮らしや考えた方に影響していることがよくわかりました。「友愛・互助・平和」は、今の私たちにとって、とっても大切なものです。



賀川豊彦記念館にて
藤田事務局長による展示解説

● R.D さん

地元の歴史を詳しく知りたいと思い参加を申し込みました。それぞれ専門家の方からお話をうかがえて、展示等の内容も正しく楽しく学ぶ事ができました。

ドイツ館では板東俘虜収容所で捕虜となった人や関係者の生活、人間模様が興味深かったです。賀川豊彦さんの、平和に対する強い思いや行動力に胸を打たれました。

ひとりでは気付けない事も、友の会の行事に参加する事で気付く事ができますので、いつも

感謝しています（学ぶだけでなく、裏話や美味しい食べもののお話も聞けて嬉しかったです）。

● 高田美紀子さん

ドイツ館では、説明を聞きながら、板東俘虜収容所全景の模型や敷地・兵舎の平面図を見ることができ、捕虜の生活が想像しやすく興味深かったです。収容所内では、その時代と状況に関わらず、過酷な捕虜生活ではなく、文化的に生活していたことが窺え、松江豊壽所長さんの信念と、それに応じ収容所を支えた職員の方に感服しました。また、亡くなられた兵士の慰霊碑は今も残り、毎年ドイツから献花に訪れ、友好の架け橋となっていることを思うと、現在まで、地元の板東の方々がよく守ってきたものだと感心しました。

続いて、賀川豊彦記念館の見学をしました。恥ずかしながら、賀川豊彦さんについては、生協（コープ）を作った方としか知識がありませんでした。初めて記念館に行って、お話を聞き、各種の労働組合など、私たちが生活する上で重要な制度の発展に貢献した方だと知りました。このように、多岐にわたる事業を行ってきた方が、徳島県にゆかりがあることを誇らしく思います。私自身不勉強だったのですが、徳島の人にこそもっともっと知って欲しいと思いました。



ドイツ村公園の慰霊碑にて
森館長による解説

友の会行事報告

せんしゅうかくていえん
徳島城と千秋閣庭園の
石材見学

○日 時 1月27日(土) 13:00～15:30

○場 所 徳島中央公園

○担 当 本田壮一 (友の会役員)
中尾賢一 (博物館学芸員)
丸山直生 (友の会事務局)

○参加者 17名

徳島城は、四国最大の大名・蜂須賀氏の居城であり、現在、徳島城跡は国史跡に指定されています。その周辺には、石垣に使われている結晶片岩をはじめ、城山貝塚、縄文海進時の痕跡、千秋閣庭園の庭石などがあり、地学的にも見どころの多い場所です。

小学生から80歳代まで幅広い年齢層の参加者が、徳島中央公園の岩石についての解説と見学を楽しみました。

(丸山直生)

Voic^e 参加者の声

●高田美紀子さん

お城の石垣は主に緑色片岩(青石)、所々に紅れん石片岩のような、大きな塊が採れにくく割れやすい石を石垣の素材としているのは、全国的に珍しいことを知りました。今は、表面が灰色っぽく見えますが、完成当時は青々とし紅色の差し色もあり、とても美しい石垣だろうと思いました。もし当時のお城が現存していれば、城郭と青い石垣の組み合わせは素晴らしかったに違いないと想像します。庭園は石垣同様、青石をふんだんに使用し、特に橋に用いたとても長い石には圧倒されました。このような大きな石(写真参照)を切り出して、運び、作庭した当時の石職人さんの苦労と技に感服しました。他に、県南から運ばれた、波に穿たれ蜂の巣様の痕跡がある石等もあり、お庭も石垣も見

て回るのが楽しかったです。

また、徳島城博物館の敷地北側にも波の飛沫により穴ボコのある青石の岩があり、縄文時代にはこのあたりが海浜地であったことが見てとれました。さらに貝塚(内部は見られないのですが)は、縄文人が暮らしていた跡だと思うと、遠い昔からの手紙のようで、悠久の時の流れの中、自然の中で人々が暮らしてきたことをあらためて実感します。詳細な御説明を聞きながら、遙か昔に思いをはせる楽しい機会になりました。

●吉岡 滋さん

戦争、デジタル、グローバル、コロナの現代、徳島と徳島城を地学(岩石学・地質学)の観点から見ることができ、併せて石のパワー、地球の営みを感じました。

(学芸員の解説により学んだこと)

1. 眉山から産出(青色片岩、緑色片岩、石英片岩)
2. 塩類風化による風化痕が見られた
3. 縄文海進があった頃は海面が2～3m高く、津田山、城山は島であった



千秋閣庭園にて記念撮影

●福田富紀代さん

私はお城等の石垣を見るのが好きで、それぞれの石の形や積み方、全体の姿を見て楽しんでいます。しかし、石そのものに注目してみたことがなく、とても勉強になりました。どのよう

な岩石をどこで、どのように切り出し、どう使ったのか…。想像がふくらみとても楽しいひとときでした。石垣を見る目が変わりました。

●北岡理沙さん

子どもが小学4年生の頃から、戦国武将やお城に興味を持ち、自由研究では、石垣の強度や石そのものについて調べています。昨年の夏には「徳島県の石ころ調査」に取り組み、見分けがつかない石を県立博物館の先生方に教えていただきました。石について調べていると、その石がどうやってできるかを調べることになります。

今回の行事では、我が家の大好きな中央公園で徳島城跡にある石垣や貝塚、庭園の石材について中尾先生に教えていただき、これから中央公園に行くたびにいろんな角度から楽しんで散策できそうです。



2024年度の友の会総会を、4月28日(日)14時45分より博物館3階講座室にて開催しました。

議事につきましては、2023年度事業報告・決算報告、監査報告、役員改選、2024年度事業計画・予算について審議した結果、すべて承認されました。

また、総会終了後には、茨木 靖 学芸員の解説により、企画展「海からどんぶらこー知られざる漂着物の世界」を観覧しました。

1. 令和6年度友の会行事

(1)愛媛県伊方町岬めぐりバス旅行(終了)

実施日：6月15日(土)

場 所：愛媛県伊方町

(2)夜の文化の森たんけん

実施日：7月27日(土)

場 所：徳島県文化の森総合公園

(3)トクシマ恐竜展 2024 の展示解説

実施日：9月7日(土)

場 所：博物館1階 企画展示室

(4)銅鏡をつくろう

実施日：11月4日(月・振替休日)

場 所：博物館3階 実習室

(5)徳島の史跡見学

実施日：12月1日(日)

場 所：徳島市

(6)ビスマス(金属)の結晶をつくろう

実施日：2月9日(日)

場 所：博物館3階実習室

(7)化石をさがそう！(恐竜化石含有層の岩石の小割)

実施日：3月15日(土)

場 所：博物館3階 実習室・屋外

2. 広報活動

博物館広報印刷物(月別催し物案内・企画展チラシ・博物館ニュース・文化の森から等)を提供します。

3. 図録の販売

・巡回展図録「アイヌ工芸品展」の買い上げ・販売をします。

・企画展図録「モンゴルのフィールドワーカー 鳥居きみ子」の印刷・販売をします。

4. 友の会会報の原稿募集及び発行・配布

会報「アワーミュージアム」No. 74・75 の発行・配布をします。

5. 会員募集

(1)来館者に案内チラシを配布します。

(2)博物館普及行事において、参加者に友の会の案内を行います。

6. 友の会グッズの販売

ポストカードとクリアファイル2種(自然・人文)、缶バッジ4種の販売をします。また、新規友の会グッズ(クリアファイル4種)の作成・販売をします。

7. 令和6年度 友の会役員

会 長：結城孝典

副会長：徳野壽治、本田壮一、熊尾雅彦(館長)

幹 事：行成正昭、大杉洋子

幸坂敏行、坂井なつ

監 査：石尾和仁、中村由香

事務局長：中澤晴子(副館長)

事務局員：

しょうたけのり こ いばら ぎ やすし
 庄武憲子（課長）、茨木 靖（課長）
 うえ ぢ たけひこ まるやまなお き
 植地岳彦（課長補佐）、丸山直生（係長）
 てつたにまさふみ は せ がわけん じ
 鉄谷雅史（係長）、長谷川賢二（学芸員）
 と むらしゅんすけ
 外村 俊 輔（学芸員）

新スタッフ紹介

●熊尾雅彦（館長）

皆さん、こんにちは。本年4月に博物館長に就任いたしました熊尾雅彦と申します。

私が県庁に入庁したのは、文化の森総合公園において各文化施設の建築がまさにこれから始まるという時期であり、当時はこの壮大なプロジェクトにただただ感心するばかりでしたが、この度、歴史ある県立博物館の一員として自分が運営に携わることができることを、とても誇らしく感じているところです。

また、文化の森総合公園は自宅からほど近いことから、一県民として、私の子どもたちが小さい頃によく利用させていただきました。緑ゆたかな園内は子どもを連れての散策にちょうどよく、図書館で絵本を読んだり、噴水を見てはしゃいでいたことが懐かしく思い出されます。

一方、県職員としては、環境部局で勤務していた際に、県立博物館の学芸員に特定外来生物とくていがいらいせいぶつの同定に協力いただくなど、今にして思えば、その当時から博物館にはご縁があったのかもしれない。

さて、皆さんご承知のとおり、県立博物館は令和3年に「徳島まるづかみ！ー“いのち”と“とき”のモノ語りー」をコンセプトにリニューアルオープンし、さらに魅力を高めるため学芸員が工夫を凝らした企画展やコレクションセッションを行うとともに、様々な行事を通して「徳島の豊かな自然と多様なくらし」に関心を持っていただけるよう努めています。

とりわけ友の会では、会員の皆さんに楽しみながら勉強していただける行事を多数開催していきたいと考えておりますので、ふるってご参加いただけますようお願いいたします。

最近はいんばうんどにより県立博物館に來館される外国の方々も増え、令和7年4月の大阪・関西万博開幕を契機に、さらに徳島まで足を延ばしていただくケースも出てくるものと思われます。来るべき「文化の森開園35周年」も見据え、県内外の多くの方々に当館を楽しんでいただけるよう取り組んで参ります。

徳島の自然や歴史・文化の拠点であり、だれもが集い、楽しく学べる場所である県立博物館をさらに進化させられるよう、微力ではございますがこれまでの経験を活かしてまいりたいと考えております。

どうぞよろしくお願いいたします。



熊尾雅彦 館長

●中澤晴子（副館長）

博物館友の会の皆様、はじめまして。今年4月に博物館の副館長に着任いたしました中澤と申します。本務は博物館ですが、鳥居龍蔵記念博物館と近代美術館を兼務しております。

私はこれまで徳島県職員（行政職）として、教育委員会（4年間）や文化資源活用課（2年間）での経験はあるのですが、どちらかというと福祉部局や県土整備部関係での勤務が長く、文化の森の施設において勤務をするのは今回が初め

てとなります。

このたび、ご縁があり、博物館に勤務できることがとても光栄で、この機会に私自身もたくさん学び、いろんなことを吸収したいと思っています。

文化の森は、来年、開園してから 35 周年を迎えますが、今年度も博物館をはじめ各館において、年間を通して様々なイベントを開催する予定となっております。

友の会の皆様、県内外の多くの方々に来館していただき、楽しんで御利用いただけるように日々取り組んで参ります。どうぞよろしくお願いいたします。



中澤晴子 副館長

●おおしおけいいちろう大塩啓一郎（考古担当）

皆さま、初めまして。2024 年 4 月より考古担当学芸員として着任いたしました、大塩啓一郎と申します。出身は徳島県みましわきまちの美馬市脇町で、その後、愛媛県内の大学に進学し、このたびリターン就職で徳島に戻って参りました。幼い頃から慣れ親しんだこのふるさとで、博物館学芸員という仕事ができることを非常にうれしく思っています。

私は考古学のなかでも、土器・陶磁器といったいわゆる「やきもの」を専門としており、とくに中世のやきものを専門として扱ってきました。学生時代、環境としては島嶼部とうしょぶや山間部、平野部、時代としては縄文時代から中・近世にいたるまで、様々な遺跡で発掘調査をさせていただき、多種多様なモノに触れながら経験を積むことができました。

やきものは考古学の発掘調査では大量に出土する資料であり、破片であってもいつ頃に使われたものかがわかり、遺跡がいつぐらいに営まれていたのか、どんな人たちが住んでいたか、などを教えてくれることもあります。

学芸員として、展示や普及行事などを通して皆さまと一緒に勉強しながら研鑽を積み、精一杯励みますので、どうぞよろしくお願いいたします。



大塩啓一郎 学芸員

アワーミュージアム 第 74 号

2024 年 7 月 25 日発行 : 徳島県立博物館友の会
〒 770-8070 徳島市八万町向寺山 徳島県立博物館内

TEL 088-668-3636 FAX 088-668-7197 E-mail: mus-tomo@bunmori.tokushima.jp